

～ おおもり支えあい協議体 ～

『大森地域アンケート調査』結果報告

団塊の世代が後期高齢者となることで介護・医療費など社会保障費の急増が懸念される中で、少子化や世帯の小規模化が進行し、支援の必要な高齢者は増え、担い手の割合が少なくなっていくという難しい時代を迎えます。

介護保険制度や行政施策に対する期待はますます拡大し、複雑・多様化していくことが予想されます。それらが効果的に役割を発揮できて、できるだけ安定継続させるという考え方も重要なことです。改めて互助・共助という地域の役割について地域一丸となって考えていくことが大切です。



【 アンケート実施状況 】

大森町全域 1,933 世帯に対して実施

- ・白山地区と川西地区が約 80%の回収率
- ・大森地区と保呂羽地区が約 70%の回収率

回答数 1,466 世帯
回収率 75.8 %

【 世帯構成 】

大森地域は同居世帯が半数を占めている。

- ◆二世帯同居世帯 33.5%
- ◆三世帯同居世帯 14.1% 47.6%

大森地域の高齢者世帯は 3 割以上を占めている。

- ◆高齢者世帯 23.5%
- ◆単身高齢者 10.6% 34.1%

高齢者世帯と一人暮らし高齢者世帯を合わせた世帯数が 500 世帯に及んでいることから、地域の見守りや地域の支え合いの大切さを確認できる結果となりました。

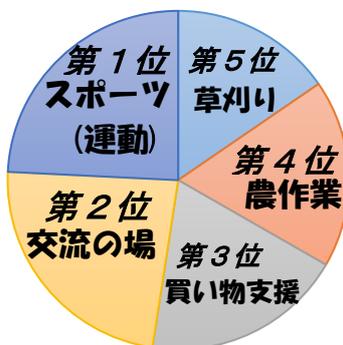
【 地域にあったらいいと思う取り組み 】 ベスト5

各地区の回答数上位 5 項目をまとめてみると、地区によって多少順位に違いはありますが、共通点が多いことが分かります。「交流の場」「スポーツ（運動）」の選択が多いことから、デイサービスの活動の期待が大きいことがうかがえます。また、保呂羽地区の買い物支援も見逃せません。

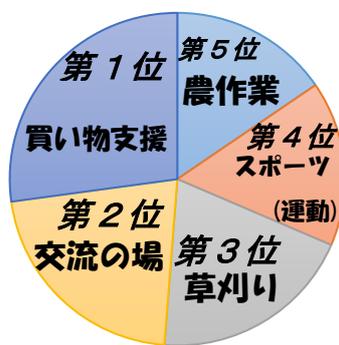
《 大森地区 》



《 白山地区 》



《 保呂羽地区 》



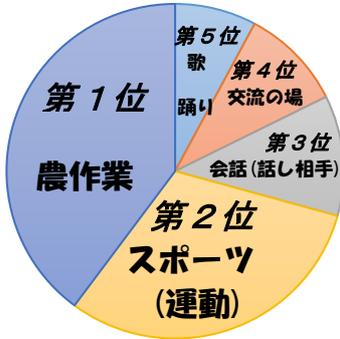
《 川西地区 》



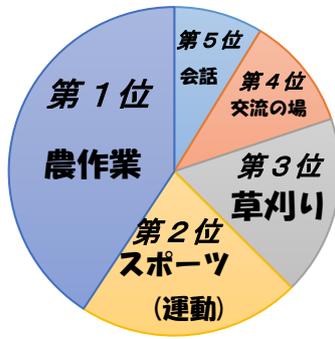
【活動していること・楽しんでいること】 **ベスト5**

各地区の回答数上位5項目をまとめてみると、基幹産業が農業という現実的な結果がうかがえる一方で、生涯学習活動やいきいきサロン活動などの取り組みも進められているようです。気になるのは、設問に対して無関心な自由記載や無回答も少なくなかったことから、各地域の実態把握を進めながら、前の問で多かった「交流の場」のさらなる普及が必要です。

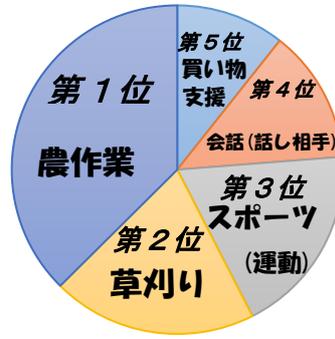
《大森地区》



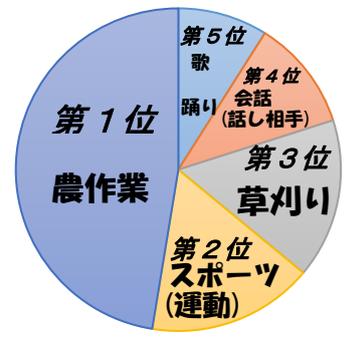
《白山地区》



《保呂羽地区》



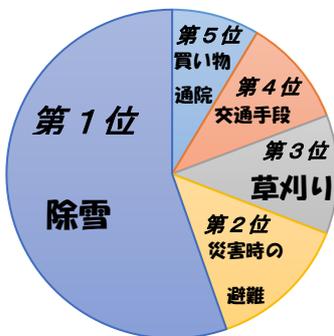
《川西地区》



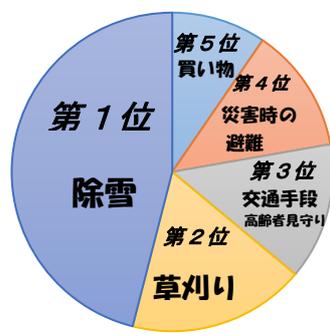
【あなたの家の困りごと】 **ベスト5**

豪雪地帯であることから、どこの地区も共通して雪対策を第一の課題と捉えています。また、草刈り作業も重労働であることから、世帯構成が変化している中で長年住み慣れた地域で住み続けるためにも見逃せない課題です。さらに、公共交通機関の廃止に伴う交通手段の問題、一人暮らし高齢者世帯の見守りや災害時の避難の問題、通院・買い物の問題などの課題が明らかになりました。

《大森地区》



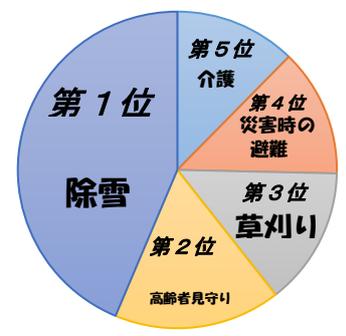
《白山地区》



《保呂羽地区》



《川西地区》



今回のアンケートは、「おおもり支えあい協議体」活動の道標やヒントを得ることを目的に実施したものでしたが、地域性を考慮して、地区別に分けて集計しました。その結果、若干の違いはあるものの、およそ共通した課題を読み取ることができました。また、自由記載欄にもたくさんのご意見やご要望などをご記入いただき、地域の状況を具体的にイメージできたことや、各設問の回答結果をより具体的に捉えることができました。さらに、最後の設問の回答結果は、7月22日～23日の大雨災害などからも、地域の役割を改めて認識していく喫緊の課題と捉えられます。

- ①交流の場、地域の居場所などのニーズが高い
- ②スポーツ(運動) ニーズから介護予防意識が高い
- ③農作業の維持や草刈りなどの敷地内の維持管理の不安
- ④サロン活動や生涯学習活動の価値意識が高い
- ⑤交通手段や買い物の不安について、具体的な実態把握が必要
- ⑥災害時など地域内の顔の見える関係